

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0893100057		
法人名	株式会社 セントメディケア		
事業所名	グループホームひぬまの杜	ユニット名	(2階ユニット)
所在地	〒311-3124 東茨城郡茨城町中石崎1055		
自己評価作成日	平成31年 3月28日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和元年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひぬまの杜は自然の中であり、四季折々の草花や木々の変化が感じられる環境です。利用者様の自立支援や個別ケアに力を入れ、その人らしく生活できるよう支援する一方で、ターミナルケアを希望されるご家族様にも柔軟に対応しています。また、喀痰吸引ができる職員の育成を行い、医療依存度の高い方の受け入れ体制を整えています。ご家族や地域との交流を大切にし、来訪しやすいホームづくりを心がけ、地域の認知症相談窓口としても働きかけています。平成29年12月より認知症カフェ(杜の茶話会)も始めました(偶数月の第4木曜日)。災害対策では年に2回、自衛消防訓練を行い、毎月、各ユニットごとに避難訓練を行い備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当日勤務スタッフで毎朝理念を唱和することで全職員に意識してもらっているが、内容理解の面から全体会議の勉強会の題材にしても良いかもしれない。職員半期ごとのチャレンジ目標は理念に基づいて、それを踏まえた目標を各自立てている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していることから、地域の多面的活動組織の作業に参加したり、新年会や清掃作業などの行事にも参加している。他、子ども神輿の受入れにより地域の子どもの触れ合いもある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を有する職員を配置しているため、玄関先に認知症の相談窓口である貼り紙をしている。2ヶ月に1度認知症カフェ(杜の茶話会)開催し、認知症についての理解を深める機会を設けている。利用者も参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。行政、地域代表者、ご家族代表へご利用者の状況、行事報告を行っている。また意見等いただきサービス向上に生かしている。運営推進会議の中に身体拘束適正委員会も設け、行政、地域、ご家族の皆様にも意見を頂きながら過剰さはないか確認したり、方向性を相談している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してくれている職員が窓口になってくれている。何かあれば電話で相談や質問をしている。時には役場窓口まで行くこともある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において身体拘束について話し合ったり、勉強会を設けたりしている。利用者の安全確保等やむを得ない場合、書面にて家族の同意を得た上で、何度も見直す機会を設け(毎朝の申し送りでも)、職員間で話し合っている。都度状態の記録もしている。実際に臥床時の拘束を限定でやむなく基準にのっとり実施した利用者があり、その実践を通じてより理解が深まった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での勉強会はもちろんのこと、代表で1人ないし2人くらいの職員に社外研修に参加してもらい、内容をホーム内職員に伝達する機会も設けている。利用者に痣等を発見した場合、原因を職員間で話し合い、虐待ではないことを確認し、注意深いケアをすることを共有する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいないため、学ぶ機会が乏しい。介護福祉士取得している職員も約半数近いので個人的に勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧な説明を心がけている。改定時は文書を送付している。分からないことがあればいつでも質問してくれるよう声かけしている。また文書等にも“不明な点はお気軽にお問合せください”の文言を入れている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置しているが、入っているのを見たことはない。面会に見えた時に要望等を聞くようにしている。それを管理者含め申し送り時等に共有し改善に繋げている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングで職員の意見を吸い上げている。良い意見が出た場合、試してみることもある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの都合を聞いて勤務表作りをしている。資格取得に関して、励ましや勤務調整等の協力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成30年度は外部研修に全職員が年に1回参加できるよう計画した(本人の都合で欠席された方もいた)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のケアマネ研究会への参加。町他職種連携研修会等への参加を促している。希望する職員は参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ある方は透析を受けているが、信頼関係を築かなければ透析拒否に繋がる可能性がある。作話が多いが受容し、時にはスキンシップをして少しずつ関係性を良好にしている。認知症の症状のため、忘れてしまうことで不安になる方には同じことを何度も説明し、安心していただけるような言葉かけもしている。言葉を遮らないよう聴くことに徹することもある		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の質問には丁寧に答えている。不安等に対しては例え話等を交え分かり易く説明することで不安を払拭できるよう努めている。また面会の際には日頃の様子や持病について報告する中で、マイナス面もプラス思考で話すように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のアセスメントと同時に、ご家族にもヒアリングして関係性や状態把握に努めている。その上でできることはご自身でしていただけるよう過剰サービスにならないよう心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ物を食べ、洗い物は職員、洗った物を拭くのは利用者(できる方)と協働している。また、ご利用者は人生の先輩であり、会話の中からも教えられることは多く、支援する中で自分が生きることの意味を見出す時がある。時には反面教師になることもある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係が良くなるよう働きかけているが、ご家族が負担に感じストレスにならないよう距離間を大切にしている。疲れた時は休んで良いことも伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日帰りで自宅に戻ることやお墓参り等、ご家族の協力を頂いている。以前から孫に散髪してもらっている方で、今も孫が迎えにきて散髪されてくる方もいる。友人等の面会も歓迎している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士孤立というよりはトラブルの方が多く、席替えをすることで距離をつくり良好な関係を保てるようにしている。また、全体での体操やレクリエーションで一体感を味わってもらっている。会話は見守っているが険悪になった場合は職員が介入し場面転換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(契約)終了はほとんどが持病の悪化で入院というケースが多く、お見舞いに行く時もある。最悪亡くなったケースもあり、生活保護の方は身寄りもなく告別式の参列もあった。 ご本人は亡くなってしまったが、その後も連絡をくれるご家族がいる。庭に果物が実ると誘ってくれるため、現ご利用者を数名連れて遊びに行くことも年に数回ある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	健康管理により食事制限・療法があっても好きな物を食べたいという希望が多く、季節の行事や誕生日には特別の日として制限緩和している(本人の状態による)。同じ方の意向ばかり聴くことにならないよう一人ひとり順に話を聴くようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用始めの頃のアセスメントに留まらず、日々の会話からも吸い上げている。 各職員は個人のケース記録の情報を読むことで本人の理解に努め、カンファレンスで情報共有の確認をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を介護記録に残すことで変化や異変等に気づきやすくしている。また特に注意すべきことは口頭でも申し送っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを利用し参加職員から気になることを意見してもらおうようにしている。日々の業務の中でも職員間で意見交換し介護計画に生かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の気づきを記録している。身体的な変化や経過については朱字で記入したり、赤線を引いたりして情報共有しやすいよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない方に関しては生活用品の購入代行したり、本人の嗜好品を購入代行している。入院時の購入代行や洗濯支援等も希望があればしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、ご家族、訪問理容、往診、訪問歯科、訪問マッサージ、幼稚園園児等の来訪があり、豊かな暮らしが送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により入居前にかかっていた病院に行く方もいる。糖尿病など持病のある方には専門のかかりつけ医に受診し、透析必要な方は週3回の送迎もしている。特に希望のない方はホームドクターの往診を受けることもできる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が来てくれる時に身体的な日頃の様子を伝え、特に気になるところは見てくれるようお願いしている。職員が気付かなかったことを看護師より教えられることもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを病院側に渡している。また病院に様子を見に行ったり、病院からの問合せに対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは契約時に事業所の指針を説明している。また必要になった時に再度説明すると共に、本人ご家族の要望をヒアリングして支援内容に盛り込むよう努めている。最近の例では透析利用者が一時期病院に行くことを拒否されたことがあり、ターミナルケアプランに切り替えた時があった。毎日時系列の記録に切り替え、体調の変化を見逃さないようにした。またご家族には透析に行ったか、行かなかったかの報告を都度メールで送った		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習は全職員が受けている。年間研修計画でも必ず急変時対応は入れており、外部研修にも積極的に参加してもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自衛消防訓練と毎月各ユニットで避難訓練を実施している。今年2月28日の水戸市いっせい防災訓練に合わせ実施した訓練では社の茶話会参加メンバー(地域の方7名)も一緒に行ってくれた		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心がけている。排泄関係の質問は他者に分からないよう小声にしたり工夫している。中には関係性が十分と、親近感のある対応をしている職員もいる			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は場面、場面において尋ねるようにしている。衣類に対して自由に選択して着用しているが、季節感が合わないことがあり、それに関しては誘導することもある。他、毎日のお茶では何を飲みたいか伺い提供するように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者は居室、リビング、それぞれ好きな場所で本を読んだりテレビを観たり、横になったりする時間がある。レクリエーションや散歩に誘い、職員が意図的に働きかける時間帯もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落に関しては、その人の好みを優先している。家族が持参された新しい洋服はすぐに着てもらい、古くなった物は承諾の上処分することもある。自分でできなくなってしまった方にはお手伝いしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はほぼ職員がしているのが現状だが、ご利用者、職員が同じ物を食べ、片付けは一部できるご利用者と一緒に行っている。食の好みに関しては可能な限り好みの物を提供できるよう努めている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩の方が3名おり、特に配慮している。透析を受けている方1名は水分摂取700cc/日になるよう記録して努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	9名中7名は毎食後歯磨きしている(自力・半介助・全介助)。2名は介入困難(ある程度自立しており拒否もあるため)で様子を窺っているのが現状である			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	骨折し退院後、夜間のみオムツ対応、日中はリハビリパンツにして、共用トイレにて介助。歩行可能になったら夜間もリハビリパンツに戻すという自立に向けた支援をしている。ほか、自らトイレに行けない方にはタイミングを見計らいながら声かけ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に根菜やヨーグルト、寒天を多く取り入れている。午前のお茶は牛乳を使った飲み物を提供するよう工夫している(ホットミルク、コーヒー牛乳など)。また、午前、午後と2回体操できるように努めている(午後1回になってしまうこともある)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけに拒否された方は日を改めたり、時間をあけて再度声かけするなど無理強いしないで再トライしている。場合によっては清拭や衣類交換だけの時もある。入浴されている時は、冬場は洗体時間を短く、浴槽にゆっくりつかってもらえるようにしている。心疾患の方もいるので注意も必要である		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏、冬、エアコンの調整には配慮している。寝る前に室内や布団を温めたり、濡れタオル等を使って湿度調整もしている。また、「もう寝ていいの?」と聞いて来る方には「大丈夫ですよ。」と伝え安心して眠れるよう努めている。また、常に快適であるようベッドメイキングにも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬情を添付し把握に努めている。主治医の指示に従い服薬して頂いている。心配ある場合には病院や薬局に相談し指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみはそれぞれの能力に応じてタオル、衣類等振り分けお願いしている。輪投げ、玉入れ、神経衰弱等のレクリエーションはほぼ全員参加で楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はユニット全体では職員と一緒にしている。先日も観梅に透析以外の方全員が参加でき外食が好評であった。希望者には個別外出支援もある。家族が連れ出して外出される方は1/3程度である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に希望により立替購入はあるが、現在2階ユニットでは現金所持者はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など届いた方には届けている。電話希望あった場合、相手に確認し許可を頂いてから繋げている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事飾りをしている。正月飾り、節分、ひな祭り、5月の節句、七夕、十五夜、十三夜、クリスマスツリーなど。リビングには3箇所ほどソファ(長いす含)があり、座ったり、横になったり自由に使われている。テレビ、ラジオの音量、蛍光灯の電源、太陽の光、エアコンの温度調節、空気の入れ替えにも注意している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の相性を考え席替えしているため、気の合う人同士会話が弾んでいる時が多い。一人になりたい時は居室が個室なので、そちらで過ごす時間もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、椅子、壁掛け、家族写真など自由に持ち込まれている。部屋に入る大きさの物であれば特に制限は設けていない		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下から居室の段差なし。廊下には手すりが付いており、広さも1m65cmある。また夜間でもトイレの場所が分かるようにトイレマークを入れた目印を下げている。職員の言葉をすぐ忘れていたり、伝わりにくい人のため、トイレや居室に大きくメモ書きを下げている。		